「kirakira」の分析（要約）

浜田敏正氏の個人ホームページ（http://www4.kcn.ne.jp/~tm-hama/）／全 312 ページ・約 230 万字を分析 ／2026 年 10 月

> **読書記録を軸に、時事への考えと市民活動を 25 年間書き継いできた個人サイト。** 主題は一貫して、権力をどう縛るか、戦争と平和をどう考えるか、弱い立場の人をどう見るか。年月とともに変わったのは、結論というより、関心の範囲と考察の仕方である。

1. どんなホームページか

コーナー	期間	内容と特徴
読書のコーナー	2002–2026	年別の読書記録。評価（◎○□△×）、書名・著者、読了日、要約と感想、「⇒」で始まる本人のコメント。抽出できた範囲で約 850 冊。小説と、歴史・政治・社会の本を並行して読む。
最近の出来事・考えたこと	2003–2024	2003〜09 年は意見文、2010〜17 年は日記形式。2022 年は奈良女子大学の講演資料、2024 年はアムネスティ例会の資料。2026 年に意見文を再開。
平和に関する市民勉強会	2006–2008	筆者が問題提起して議事録を残した勉強会。憲法、慰安婦問題、正戦論、兵役拒否、『蟹工船』など 12 回。
メモ	2003 年〜	本や講演の要約・抜き書き。筆者の主張とは限らない。

特徴： テキスト中心で、ブログや SNS に移らず年ごとのページを積み上げる。実名・日付つきで、判断を改めた過程も残る。読書・講演・活動（アムネスティ奈良グループ、2002 年の植林ツアーなど）が連動している。

2. 何を考えているか

テーマ	考え方と主な記述
権力と立憲主義	憲法は「権力を縛るもの」。2005 年の自民党草案、2013 年の特定秘密保護法、2014 年の集団的自衛権の解釈変更（「明らかに立憲主義に反する」）に反対。
戦争と平和	2003 年に自衛隊イラク派遣に反対。軍縮を重視し、武器輸出緩和（2011 年）、敵基地攻撃能力（2026 年）に反対。自衛隊は必要と認め、将来の改正は否定しないが、解釈改憲が続く限り歯止めにならないと警戒。
歴史と責任	東京裁判、東條英機の供述書、読売新聞『検証 戦争責任』などを読み、指導者とメディア・世論の責任を考える。2014 年に、戦争に反対する力をつけなかったことにも責任があると記す。
格差・財政・税	貧困・格差に関心（湯浅誠氏の講演、橘木俊詔氏の著作）。同時に財源を重視し、財源のない無料化・減税に反対（2009 年、2026 年）。
人権と普遍性	アムネスティ会員（2005 年〜）。国際人道法の公平な適用、難民受け入れの二重基準への批判（2022 年）、ガザを「西側諸国と私たちが加害者側に立つ問題」と記す（2023 年）。自分に許すことは他者にも許す、という相互性の論理。
政党と選挙	比例区削減への反対は 2003 年から 2026 年まで一貫。民主党系を支持しつつ、公約と説明責任に厳しい。
考え方の方法	数字・資料を根拠にする。引用と自分の考えを分ける。誤りは訂正する（2005 年、2010 年、2012 年）。「日本人がイラク人を殺す可能性」のように、加害側に立つ可能性から考える。

3. 年月とともにどう変わったか

時期	関心と動き
2002–2005	読書記録を開始。拉致アンケートへの違和感、イラク派遣反対、デモ参加、人質事件の分析。2005 年に京都自由大学を受講、アムネスティの会員に。
2006–2009	市民勉強会を開催。憲法観が具体化（「自衛隊は必要、将来は改正」）。派遣切り・貧困へ関心が広がり、2009 年の政権交代に「高揚感はなかった」と書く。
2010–2015	日記が中心。密約公表を評価する一方、小沢氏の判断を改める。2011 年の原発事故後は全原発の早期停止を支持しつつ、研究は否定せず。特定秘密保護法、集団的自衛権、安保法制に反対。
2016–2019	意見文は少なく、読書記録が中心。2016 年は東大闘争、哲学、民主主義、武器輸出などテーマ別に読む。
2020–2025	資本主義批判、ガザ、ウクライナ、財政、リベラルの再定義へ。2022 年の講演で国際人道法と難民を論じ、2024 年にピケティを紹介。
2026	中道改革連合・立憲民主党に期待する政策を 8 項目で書く（9 条は急がないが、自衛隊明記なら活動を領土内に限る条文で対抗、敵基地攻撃に反対、恒久減税を批判）。

変わらないもの： 権力を縛る憲法、軍拡でなく軍縮、人権の普遍性、二重基準への批判、財源の整合。**変わったもの：** 護憲の決まり文句から条件つきの現実論へ。関心が歴史・平和から、原発、国際人権、財政、リベラルへ広がった。抗議から、政策の中身を考える方向へ。

4. 読書の特徴と読むときの留意点

読書： 評価は辛口で、◎は約 5%（40 冊）、×は約 3%（23 冊）。2007 年 4 月に 4 段階から 5 段階（「□普通」を追加）に変更した。よく読む著者は川上弘美、吉村昭、森見登美彦、小川洋子、夏目漱石など。ドストエフスキーは『罪と罰』『悪霊』『白夜』などを読み返している。**留意点：** 平和主義・立憲主義・人権を重んじる立場から書かれ、中立的な記録ではない。読書記録・メモは本の要約が多く、本人の考えは「⇒」のコメントなどで判断する必要がある。全ページの精読ではなく、読み違いがありうる。